

## 安全データシート

作成日 2007年3月13日

改訂 2020年6月29日

製品名 Kビルダー

## 1. 製品及び会社情報

## 対象物の名称

製品名	Kビルダー
米国製品名	7-2-21, K-Builder
米国製品コード	
肥料登録番号	輸第 10807 号
肥料登録名称	K-BUILDER7-1.5-21 (ケイビルダー)
社内 SDS 整理番号	202006-F
製造元	
会社名	Plant Health Intermediate, Inc. DBA Douglas Plant Health
住所	1550 E. Old 210 Highway Liberty, MO 64068 USA
電話番号	+011-914-428-1316
輸入元	
会社名	東洋グリーン株式会社
住所	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2-33-8
電話番号	03-3249-7731
担当	毒物劇物取扱者

## 用途

本製品は、主に芝生地に用いられる微量元素を含む液体肥料である。

## 2. 危険有害性の要約

## ピクトグラム



## 注意喚起語

## 警告

## 危険有害性

H303 経口急性毒性	区分 5 飲み込むと有害のおそれ
H315 皮膚腐食性/刺激性	区分 2 皮膚刺激
H319 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 2A 強い眼刺激
H335 特定標的臓器毒性、単回暴露； 気道刺激性	区分 3 呼吸器への刺激のおそれ

## 注意書き

P312 気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
P264 取扱い後、手をよく洗うこと。  
P280 保護手袋を着用すること。  
P302 + P352 皮膚についた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。  
P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断/手当てを受けること。  
P362 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。  
P280 保護眼鏡/保護面を着用すること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337 + P313 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当てを受けること。

P261 ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

P271 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。

P304 + P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P312 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

P403 + P233 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。

P405 施錠して保管すること。

P501 内容物/容器を自治体の定める法令にしたがって廃棄すること。

### GHSによる危険性・有害性の分類

#### ① 危険性

火薬類	分類対象外
可燃性・引火性ガス	分類対象外
可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
支燃性・酸化性ガス	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	分類対象外
自己反応性化学品	区分外
自然発火性液体	区分外
自然発火性固体	分類対象外
自己発熱性化学品	区分外
水反応可燃性化学品	区分外
酸化性液体	区分外
酸化性固体	分類対象外
有機過酸化物	区分外
金属腐食性物質	区分外

#### ② 有害性

急性毒性：経口	区分 5	飲み込むと有害のおそれ
急性毒性：経皮	分類できない	
急性毒性：吸入（気体）	分類できない	
急性毒性：吸入（蒸気）	分類できない	
急性毒性：吸入（粉塵）	分類できない	
急性毒性：吸入（ミスト）	分類できない	
皮膚腐食性・刺激性	区分 2	皮膚刺激
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分 2A	強い眼刺激
呼吸器感作性と皮膚感作性	分類できない	
生殖細胞変異原性	分類できない	
発がん性	分類できない	
生殖毒性	分類できない	
特定標的臓器・全身毒性（単回暴露）	区分 3	呼吸器への刺激のおそれ
特定標的臓器・全身毒性（反復暴露）	分類できない	
吸引性呼吸器有害性	分類できない	

#### ③ 環境に対する有害性

水生環境急性有害性（急性）	分類できない
水生環境慢性有害性（長期）	分類できない

### 3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区分	混合物
-------------	-----

一般名	分子式	CAS番号
尿素	CO(NH <sub>2</sub> ) <sub>2</sub>	57-13-6
炭酸カリウム	K <sub>2</sub> CO <sub>3</sub>	584-08-7
1,1'-メチレン二尿素	C <sub>3</sub> H <sub>8</sub> N <sub>4</sub> O <sub>2</sub>	13547-17-6
ポリリン酸アンモニウム	H <sub>12</sub> N <sub>3</sub> O <sub>4</sub> P	68333-79-9

#### 4. 応急措置

##### 応急措置

吸入した場合	新鮮な空気のある場所に移し安静に努める。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	石鹼と水を用いて洗浄する。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。薬液の付着した衣服は再使用前に洗うこと。
眼に入った場合	清浄な流水で数分間注意深く洗うこと。症状が続く場合、眼科医の診断を受ける。
飲み込んだ場合	口をすすぐ。医師の診断があるまで無理に吐かせようとしないこと。意識がない場合には口から何も与えないこと。刺激が残る場合には医師の診断を受ける。

##### 重要症状

吸入した場合	急性および遅発性の症状 呼吸器系の炎症を起こすおそれがある。胸の締め付け感を伴う喉の炎症を起こすおそれがある。
皮膚に付着した場合	肌に触れると、赤みや刺激を感じることもある。
眼に入った場合	炎症や赤み、催涙を起こす可能性がある。
飲み込んだ場合	摂取すると吐き気、嘔吐、胃や消化器系の炎症を起こすことがある。口や喉の痛みや赤みを伴うおそれがある。

##### 医師への注意事項

##### 特定の治療法

具体的な推奨事項はありません。治療は被害者の状態や事故内容により異なる場合があります。  
眼球洗浄用品を用意しておくこと。

#### 5. 火災時の措置

消火剤	粉末、泡、二酸化炭素、霧状水等周囲の物に適正な消火剤を用いる。特殊な消火剤は必要としない。本製品は可燃性ではありません。周辺環境に適した消火媒体を使用する。物質自体が燃えることはありません。
使ってはならない消火剤	棒状水を用いない。（周辺への飛散）
火災時の特定危険有害性	分解生成物が腐食性/毒性を持つ可能性がある。
特定の消火方法	具体的な消防上の注意事項は知られていない。刺激性、不燃性、水溶性であり、高水圧では泡を発生させる。火事で発生したガスを吸い込まない。漏出した物質や消火剤等が河川等に排出されないように配慮する。消火活動は風上から行う。
消火を行う者の保護	消火作業では適切な保護具（陽圧式呼吸具、手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。

#### 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
環境に対する注意事項	排水溝、下水道、河川、湖沼、地下水等に流入しないようにする。流入する場合には、関係当局に連絡する。
除去方法	砂、土、その他の不燃物でこぼれたものを封じ込め、吸収する。廃棄用の容器に移し、汚染された場所を多量の水で洗い流してください。廃棄物の処理については、13項を参照してください。

---

**7. 取扱い及び保管上の注意**


---

取扱い	「8. 暴露防止及び保護措置」記載の設備対策を行い、保護具を着用する。作業は換気の良い場所で行う。
安全取扱注意事項	こぼさないよう注意する。眼や皮膚、衣服に触れないよう十分注意する。マスク、保護衣、保護靴、保護手袋、保護眼鏡等を着用する。作業後は手を洗うこと。作業場での飲食、喫煙を避ける。
保管	
適切な保管条件	密閉し換気の良い室内の涼しい場所に保管する。霜を避け 5℃以上で保管すること。混合を避ける物質、食品、ペットフードなどを遠ざける。誤飲・誤用を防ぐため元の容器を使用すること。

---

**8. 暴露防止及び保護措置**


---

許容濃度	
日本産業衛生学会	設定されていない（製品）
厚生労働省告示	設定されていない（製品）
	製品については既知の許容濃度はない。
暴露限界	
日本産業衛生学会	設定されていない（製品）
厚生労働省告示	設定されていない（製品）
	製品については既知の暴露限界はない。
曝露防止	換気の良い場所で取り扱う。室内で作業する場合は換気に努める。敷地内に洗眼可能な設備、シャワーを用意する。
保護具	
呼吸器の保護具	必要に応じてマスクを着用する
眼の保護具	保護眼鏡（ゴーグル型）、保護面
皮膚及び身体の保護具	長袖保護衣、保護手袋、保護眼鏡を着用。
適切な衛生対策	取り扱い後は手を良く洗う。汚染した衣服は他のものと別に洗濯する。

---

**9. 物理的及び化学的性質**


---

物理的状态	
形状	液体
色	淡緑色
臭い	わずかなかび臭
物理的状态が変化する特定の温度/温度範囲	
沸点	約 100℃
融点/凝固点	0℃
可燃性	不燃性
爆発限界	上限：設定されていない 下限：設定されていない
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	11 (21℃)
粘度	5~15mPa・s (21℃)
溶解度	
水に対する溶解性	完全に混和
溶媒に対する溶解性	データなし
n-オクタノール/水分分配係数	データなし

蒸気圧	水と同じ
比重	1.42g/cm <sup>3</sup> (21°C)
相対ガス密度	適用されない
粒子特性度	適用されない

## 10. 安定性及び反応性

安定性	通常の使用条件、輸送条件で安定。21°C で2年以上安定。 0°C以上、通常5°C以上で保管
避けるべき条件	高温を避ける。
危険有害分解生成物	データなし
他の物質との重合	データなし

## 11. 有害性情報

本製品に接触すると、わずかな目への刺激を引き起こす可能性があり、皮膚への暴露が繰り返されると皮膚に刺激を引き起こすおそれがある。通常の使用条件下では有害であるとは考えられていませんが、噴霧中の製品を吸引すると、鼻咽頭や肺に刺激を引き起こす可能性があります。長期または反復暴露により炎症を起こすおそれがあります。

眼への影響	ウサギ 0.1ml 用量で角膜または虹彩への影響は認められなかった。
摂取時の影響	データなし
急性毒性推定値 (ATE)	製剤 (経口) データなし 製剤 (吸入) データなし
発がん性	原料に発ガン性に区分されるものは含まれず、区分外と推定される。

## 12. 環境影響情報

本製品について生態毒性、難分解性、生物濃縮の可能性は知られていない。本製品は土壌微生物により生分解されるとともに、土壌から比較的早期に脱離し、生物蓄積しないと推測される。水系に大量に流入すると富栄養化によって水生生物に有害な藻類の発生の可能性がある。

## 13. 廃棄上の注意

廃棄の方法	
残余廃棄物	廃棄はなるべく避け、肥料として使用する。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体に委託して処理する。
容器	関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

## 14. 輸送上の注意

国際規制	
本製品は規制されていない材料を用いており、可燃性、腐食性、爆発性、放射性はありません。 DOT / TDG / ADR / RID / ADNR / IMDG / ICAO / IATA の規制をクリアしています。	
国連分類	該当しない
国連番号	該当しない
国際海上危険物規程	該当しない (IMDG)
国際民間航空機関危険物輸送規則	該当しない (ICAO)
国内規制	航空・海上輸送、陸上輸送に制限はない
航空法規則	該当しない
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない
輸送の特定の安全対策及び条件	転倒、落下、摩擦等で包装が破損しないように積み込み、荷崩れ防止を確実にを行い、有蓋車又はシート等を掛けて運搬する。水濡れを避ける。

---

**15. 適用法令**

---

肥料取締法	該当する	輸第 10807 号	液状複合肥料
労働安全衛生法	該当しない		
毒物および劇物取締法	該当しない		
化学物質排出把握管理促進法	指定化学物質に該当しない		
航空法規則	該当しない		
危険物船舶運送及び貯蔵規則	該当しない		
輸出貿易管理令（キャッチオール規制）	該当する	第 6 部第 31 類肥料	

---

**16. その他の情報**

---

安全データシートは、化学製品を安全に取り扱うための参考資料として、化学製品を取り扱う事業者を提供されるものであり、安全を保障するものではありません。また、記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

本資料は米国 Plant Health Intermediate, Inc. DBA Douglas Plant Health 社の提供する 2020 年 6 月 11 日版 SDS を日本の法令に従って翻訳・翻案したものです。この安全データシートは、一般に入手可能な情報および自社情報に基づいて作成しておりますが、本製品に関するすべての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は本製品の一般的な取扱いについて記載したものです。本製品を取り扱う事業者は、個々の取扱いの実情に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、この安全データシートを活用されることをお願い致します。

以上